

特定非営利活動法人アサザ基金

2018 年度第 20 期通常総会資料

日時：2019 年 5 月 12 日（日） 15：00～17：00

場所：エスカード生涯学習センター第 3 講座室（029-874-3131）

牛久駅西口下車徒歩 2 分 エスカードビル 4 階 駐車場（有料）



特定非営利活動法人アサザ基金
300-1222 牛久市南 3-4-21
電話 029-871-7166
asaza@jcom.home.ne.jp

特定非営利活動法人アサザ基金
2018 年度第 20 期総会 次第

2019 年 5 月 12 日 15:00～
エスカード生涯学習センター第 3 講座室

1. 開会
2. 定足数確認
3. 代表理事挨拶
4. 議長選出
5. 総会
 - 1) 総会開会宣言
 - 2) 議事録署名人選出
 - 3) 議案審議
 - 第 1 号議案 第 20 期（2018/4/1～2019/3/31）
活動報告
 - 第 2 号議案 活動決算並びに監査報告
 - 第 3 号議案 第 21 期（2019/4/1～2020/3/31）
活動計画（案）
 - 第 4 号議案 第 21 期活動予算（案）
 - 第 5 号議案 役員改選
 - 4) 総会閉会宣言
6. その他
7. 閉会

第20期2018年度 活動報告

* 社会変革無くして環境保全は不可能なことが明確に示された1年。2018年夏、霞ヶ浦で唯一残っていたアサザ群落が消滅しました。霞ヶ浦のダム化（水位上昇管理）によって湖の生態系がダメージを受け続け、ついにアサザも耐えられなくなってしまいました。半世紀以上前に自然を無視して計画されたダム化事業が見直されることなく継続されています。見直しを求め続けてきた私達の声を行政は無視し続け、研究者は忖度し発言を避けてきました。アサザの絶滅は、湖をめぐる社会のあり方を変えない限り、湖の自然再生は無いという現実を私達に訴えています。私達は谷津田再生や街づくり、教育活動、他分野の協働事業など、湖をめぐる社会が展開している流域での活動に力を注いできました。私達は今後も、流域全体を視野に入れて自然と共存する循環型の社会を行政の縦割りの壁を溶かしながら展開することで、真の社会変革を実現し、アサザをはじめとした霞ヶ浦の復活を目指し続けていきます。

* 1998年に発足し、水郷トンボ公園を維持管理してきた潮来ジャランボプロジェクトが2019年3月末で解散しました。2019年度からは潮来市から委託を受けアサザ基金が、地域の人々の水郷復活への思いを引き継いでいきます。

* 10月には霞ヶ浦で23年ぶりに世界湖沼会議が開催されましたが、霞ヶ浦の危機的状況や福島第一原発事故の教訓など重要課題での議論を主催者が回避したため「私達のもうひとつの世界湖沼会議」をつくば市で開催しました。

* 北海道浜中町や岡山県倉敷市で新しい環境学習事業が始まりました。

* 若手の職員が定着しませんでした（3名退職）、年金世代の経験豊富なサポーターに支えられ新しい活動形態へのヒントを得ました。

○ 環境教育事業

地球環境基金の助成（2期6年）活動が最終年度となりました。これまで全国各地（北九州市や秋田県、三重県、岡山県、島根県）で環境学習事業に関わってこられた関係者をお招きして、11/23にESDフォーラムを開催しました。
●牛久市内における環境学習事業は牛久市の委託を受け（2004年～15年目）、11校で延べ73回の出前授業を実施しました。（7177名）恒例の「かっぱ大交流会」が積雪のため初めて中止となりましたが、秋田未来塾の子ども達を霞ヶ浦に案内し交流を深めました。

●霞ヶ浦流域では、石岡市、小美玉市、かすみがうら市、鹿嶋市、龍ヶ崎市の学校から授業の依頼を受け、その特色に合わせた環境学習授業を実施しました。（13回209名）

●NECキャピタルソリューション㈱と協働で進めるくわくわく子どもの池プロジェクト（2007年～）では、都内の小学校2校で授業を実施しました。社の40周年記念事業に、秋田県潟上市立大豊小6年生がお米のシール作りに協力しました。（9回566名）

●秋田県では、NPO法人草木谷を守る会の依頼を受け、リキノスケ未来塾に11回、潟上市や三種町の小学校3校でも八郎湖に関する環境学習を進め、五城目高校では講演を行いました。（29回1,186名）

●北九州市では曽根東小、すがお小、市丸小において環境学習授業を継続しました。（20回802名）

●岡山県では、森に囲まれた真庭市立中和小と瀬戸内海に面する岡山市立小串小の子供たちが、岡山エコサポーターズの協力もあり、互いに訪問して交流する授業を実現しました。（12回 121名）島根県の小中一貫校、八束学園で環境学習授業とオガノリ刈体験に協力しました。（1回 24名）

●北海道浜中町ではシマフクロウエイドの講演（12月）をきっかけに、霧多布小、茶内小で3月に出前授業を行いました。（3回 55名）学校関係者や地元NPOの依頼を受け年間学習プログラムと小中高の系統的な学びの提案を作成しました。

○ 霞ヶ浦の水辺の保全と再生事業

1. 要望書を提出しました。

10/1 茨城県知事宛て 「世界湖沼会議への要望および、アサザを絶滅に追い込み霞ヶ浦の生態系と景観を損ない続けている不自然かつ不必要な水位上昇管理の見直し等を求める要望書」 回答 10/15

10/1 霞ヶ浦河川事務所長宛て 「アサザを絶滅させた霞ヶ浦水位運用試験の中止を求める申し入れ」 回答 11/5

2/26 茨城県知事宛て 「東海第二原子力発電所に関する質問」 回答 3/27

2. アサザ群落を復活させるため、企業や市民、保育園の子どもたちがアサザの植付けを霞ヶ浦湖岸で行いました。7/3には玉里東小が地域住民の協力を得ながら全校児童でアサザの植付け会を実施。植付指導に協力しました。

アサザ の植付	日立化成（株）木原 8/25 納場保育園 8/30 新宿カッパ村 予科練池 9/19 （株）ツムラと大日本印刷（株）にはアサザの里親としてご協力いただきました。
------------	---

3. 潮来ジャランボPJ 実行委員会より委託を受け、水郷トンボ公園の維持管理を潮来ジャランボPJの皆さんや地域住民と連携して実施しました。6/23 コカ・コーライーストジャパングループ労働組合の有志にご協力いただきました。

○ 水源地保全事業

牛久市上太田地区

●NEC 田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金（2010年～）

田植 6/9 草取中止 7/21 稲刈 10/13 味噌作り 2/2

新人研修 5/20 計 359名

遠山地区 ●三井物産谷津田再生プロジェクト（2007～）

田植 5/26 草取 7/14 稲刈 9/22 仕込 2/16 蔵出 3/9 開拓者コース 計 196名

●一橋大学大学院 海外留学生との谷津田再生プロジェクト（2014年～）

田植 6/13 草取 6/30 稲刈 9/30 計 65名

●SUZUYO いいね！プロジェクト（2018年～）

田植 6/2 草取台風で中止 7/28 10/6 稲刈 計 90名

●かっぱん田プロジェクト（2010年～）損保ジャパン日本興亜ラーニング生（大学生）主体の援農活動

田植 5/26 草取 6/24 古民家宿泊 7/19-20 稲刈合宿 10/6-7 収穫祭 2/23 計 168名

奥原地区 ●ホギメディカル谷津田再生プロジェクト（2009 年～）
蔵出 4/14 田植 5/19 草取 6/30 稲刈 10/13 酒仕込 3/24
蔵出 3/30 計 311 名
鹿嶋市山之上●UBS RICE Project（2008 年～）
田植 5/13 草取 6/10 稲刈 9/30 蔵出 3/10 計 386 名
新イベント 6/17（牛久市島田町古民家） 計 37 名
桜川市 ●日立化成 しょうゆとお米で自然とつながろうプロジェクト
田植 4/21 草取 6/17 稲刈 9/1 3/2 山桜植樹 計 123 名

○ 耕作放棄畑の活用

牛久市奥原にある耕作放棄された畑で「ビオトープ農法の確立と普及」に取り組みました。キャノンマーケティングジャパン（株）との協働事業（2009 年～）です。古民家も活用しました。助成金は今年度で終了ですが、今後もビオトープ農原として活用して定着を図っていきます。

4/1 ジャガイモ植えと菜の花摘み 4/22 かぼちゃの種まきと竹林整備 写真教室
9/15 かぼちゃの収穫とパイ作り 11/25 大根収穫と豚汁会 計 132 名

農薬を使用しない野菜の収穫体験は、とりわけ幼児いる家族に好評でした。古民家の竹細工を食器にしたり、奥野小の観察授業や日曜かっぱ塾でも活用しました。

○ 空き家（古民家）を活用した環境保全と地域活性化

牛久市島田地区にある古民家を長沼理事から借りて地元の小中学校の総合学習の場として生かしながら、地域住民と連携して、地域が抱える空き家や少子高齢化、放置竹林、森林荒廃、耕作放棄地などの諸問題に取り組む拠点としての活用と整備を開始しました。中学生が提案としてまとめた古民家カフェの実現に向けて準備を進めています。

○ 森づくり事業

霞ヶ浦流域に占める森林面積は2割弱しかありません。湖の健全な水循環を維持する上で森林の保全と森づくりが欠かせません。牛久市クリーンセンター近くの山林で、「UBS の森作りプロジェクト（2009 年～）」を UBS 証券の支援と牛久市の協力をいただき、植林や森の整備を進めました。4/15 に春イベントとして森の手入れと古民家で竹細工に挑戦しました。計 50 名

○ その他

湖が喜ぶ煎餅

「密漁をしない漁師から仕入れた「ざざえび」と、谷津田再生事業に取り組んでいる㈱ホギメディカルとかっぱん田 PJ が栽培した無農薬栽培米の米粉を使用して「湖が喜ぶ煎餅」を作りました。小美玉市の大形屋商店に協力いただきました。牛久市内の社会福祉法人みのるの郷で 6 月まで販売中。一袋 200 円。水源地の再生、地域活性化、水産資源の保全を目的としています。

谷津田の再生と自然観察会

トンボ学生服が毎年開催を呼び掛けている「トンボスケッチ会」を、8 月 6 日神谷小に隣接するカワセミの里とワクワランドをお借りして開催しました。夏休み中の子ども達が家族で参加してくれました。

向台谷津田において、12/27と3/25 牛久市立向台小学校児童に呼びかけ、谷津田の維持管理作業と自然観察会を行いました。牛久沼水源地谷津田の生物多様性保全と地域コミュニティの活性化を図りました。

花畑プロジェクトへの協力（2011年～） 日本テキサス・インスツルメンツ(株)美浦工場は、近接地にある耕作放棄地でヒマワリやナタネを栽培し、油を絞って社内で活用しており、その活動に協力しました。

研修生やボランティアの受け入れ

損保ジャパン日本興亜環境財団の「CSOラーニング制度」から3名のインターン生を受け入れました。（7月～2月の8ヶ月間）アサザプロジェクト全般について体験するとともに、かっぱん田での稲作体験を企画運営、収穫したもち米から煎餅を作ったり、牛久南中学校の生徒とも協力して環境学習に取り組みました。

8/7 CMJの協力で講師をお招きし、アサザ基金職員研修を実施しました。

会報の発行

会報「あさざだより」61号（2018年8月）62号（2019年1月）を発行し、会員の皆様や学校、関連企業などの関係者に配布し活動紹介に努めました。（発行部数/毎号 約1000部）

ホームページ運営

リアルタイムで情報を発信できるホームページの活用を充実させることが課題となっています。

講演、視察の受け入れ

講演や大学の講義等において、代表理事の飯島がアサザプロジェクトの活動理念を紹介しました。（9回）

視察では、大学など4団体、69名を受け入れました。

ご寄附をありがとうございました。

2018年度の会費は600,000円 寄付は8,087,836円でした。会員の皆様、心ある支援者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

イオンのイエローシートキャンペーンから、総額62,900円（4月28,700円、10月34,200円）分の物品を購入しました。

アサザプロジェクトへの参加人数 2018/4～2019/3

環境教育事業	10,140
水源地保全事業	1,735
その他	487
計	12,362名

1995年発足から、アサザプロジェクトへの参加者数は延べ324,722名となりました。

